

平成 10 年 6 月 30 日

(社)日本電機工業会

核燃料サイクル開発機構設の研究開発のあり方に関して

1. 核燃料サイクル開発機構(以下新機構と略)設への期待

(1)もんじゅの運転再開と利活用計画

- もんじゅの早期立ち上げと運転再開
- もんじゅの利活用計画の推進
 - ・原型炉としてのデータ蓄積
 - ・炉心、燃料に関する研究
 - ・革新的機器開発の実証の場としての活用

(2)新機構設と電力設の有機的な開発推進

- 電力設が計画しているFBR実用化計画と新機構設が行うFBR実用化に必要な研究開発の有機的な推進
- 民間の要望も取り入れた先進的核燃料リサイクル技術の開発とこのプロジェクトにメーカーも人員派遣を含めて参加

(3)研究開発成果のデータベース構築

- これまでの研究成果や今後得られる研究開発成果を集大成するFBRデータベースの構築
- 国際協力によるデータベース拡充
- データベース構築のための民間技術力活用

2. メーカー側経営の観点よりの要望

(1)開発計画の早期明確化

- FBRの使命と目標の明確化
- 中長期事業計画の早期具体化

(2)革新技術の開発とナトリウム施設の運営

- 革新技術の早期実用化
- 国の大型ナトリウム施設の運営委託
- ナトリウム技術者の育成と技術継承

以上